

まちたん ～まちのお宝探検隊～



後世に伝えたい宝物

せせらぎ街道沿いの 美しい自然景観

清見地域は高い山々に囲まれ、その中に深い渓谷をつくりながら川上川、馬瀬川、小鳥川、森茂川が流れており、いくつもの景勝をつくっています。特に、飛騨美濃せせらぎ街道の清見町を縦断する約35キロメートルの区間は、新緑や紅葉の美しさはもろろのこ、数々の滝や巨木などは思わずため息が出るほどの絶景です。

その自然豊かな景観を保全・活用するため、大倉・西ウレ・大原周辺の沿道を生生活環境保全林(※)に指定し、「せせらぎ街道四季の郷」として平成3年から平成10年の8年間に森林整備や遊歩道、広場の設置などを行いました。また、平成8年には「せせらぎ渓谷県立自然公園」として指定されています。



せせらぎ街道

※「生活環境保全林」
：水源の養
成や災害を
防ぐ森林の
働きを高め
つつ、レク
リエーショ
ンなどの保

健休養の働きも併せ持った森林のこ
と。

○大倉周辺

せせらぎ街道から脇道に入った大倉滝までの約1.4キロメートルの渓谷は、比較的硬い濃飛流紋岩でできた大きな岩と、川の流れそのものの落差が、まるで百の滝があるような光景を生み出していることから大倉百滝とも呼ばれ、市の名勝に指定されています。最上部に位置する落差約30メートルの大倉滝をはじめとし、登竜門滝・昇竜の滝・羽衣の滝・竜涎の滝・滑座の滝といった多くの滝があるほか、その硬さゆえに侵食されずに残った巨岩の「こもり岩」と「くぐり岩」があります。



大倉滝

こもり岩は、その昔木地師が岩の根元の窪みをすみかとしたと言い伝えられる一枚岩で、くぐり岩は遊歩道に覆いかぶさってトンネルのようになっています。山の登り口から大倉滝までは遊歩道が整備されており、カソラ・トチノキ・カエデ類による渓谷の美しい風景が見られ、春から秋にかけて森林浴を満喫できます。

満喫できます。

また、大倉の川上川下流域には石楠花淵、みくまが淵、平滝などの景勝もあり、見どころが満載です。

○西ウレ周辺



紅葉のこもればい広場

西ウレ峠(標高1,113メートル)は分水嶺で、峠の南側は木曾川となり太平洋に注ぐ馬瀬川の初めの一滴が湧き出ており、源流が街道のすぐ脇を流れています。街道沿いは広葉樹の森が広がっており、高低差があることから、新緑はもとより紅葉の名所として長い期間楽しむことができ、景観の良い「こもればい広場」には毎年多くの人が訪れています。

遊歩道内には、落葉広葉樹の代表格とされるブナが大木に成長した原生林があり、たいへん貴重な自然が残されています。この源流沿いには、「神様イチイ」と呼ばれる巨木があり、その昔、山に住み、山仕事を生業とする木地師たちから、ご神木として崇められていました。

○大原周辺
大原は金森長近公が留番所を置くなど、古くから美濃路への要所として栄えてきました。地域に広がる里山には、コナラやワリなどなど人々の生活に馴染み深い樹木が多く残るほか、群落面積4,000平方メートルを誇るカタクリの群生地があり、花の最盛期の景観は素晴らしいものです。



大原カタクリ群生地

また、地域を流れる馬瀬川は、緑多い山々を源として流れを育み、増水しても短時間に水が引く「夜流し」と呼ばれる特徴ある清流で、アユ・アマゴ釣りの聖地として知られるなど、人里と自然が融合した環境となっています。

○景観を守るために

街道の二定区間内を、高山市景観計画による「清見せせらぎ街道景観重点区域」に指定し、看板や電柱の設置や開発行為などを制限するとともに、自然環境に配慮しながら間伐や下刈りなどの環境整備を行っています。

また、毎年、観光協会・商工会・長寿会・地元住民などの協力により、沿道修景作業やごみ拾いなどのボランティア美化活動が継続して行われ、この素晴らしい街道沿いの景観が守られています。